

# 赤字ハコモノから 福祉充実の 政治へ

さいたま市南区の皆さまこんにちは。川村準と申します。  
現在27歳、「さいたま」で育ちました。  
平成26年度さいたま市民意識調査の調査結果によれば、  
市民の半数近くが、「高齢者福祉の充実」を望んでいることが  
明らかになりました。

市の政策局は、2014年現在は人口増が続いているが、  
10年後にはピークに達し、それ以降は人口減となり、  
20年後は高齢者人口(65歳以上)が現在の2割から  
3割以上になると予測しています。  
さいたま市はまさしく「高齢者福祉の充実」が求められているのです。

それでは、さいたま市の福祉の現状はどうなのでしょう。  
実のところ、医療・保育の分野において、  
政令指定都市の中で比較しても、ワースト1位の数字が並んでいます。  
医療では、2010年のデータですが、人口10万人あたりの医師・  
看護師数は、全国平均が順に230人、744人となっているところ、  
さいたま市は順に166人、517人と大きな開きがあります。  
保育では就学前児童1,000人当たりの  
保育所定員数(公私立とも)がさいたま市は202人で、  
1位の新潟市の517人と比べると倍以上の差です。

さいたま市は、福祉に回す予算がないのでしょうか。  
市当局は、2015年度予算で231億円の不足が見込まれており、  
高齢者増加などの社会的要因を踏まえると、今後は市の財政に  
余裕がない、とはっきりと述べています。

それにも関わらず、清水市長とさいたま市議会の全議員は、  
赤字が確実なハコモノ3事業を進めようとしています。  
黒字のハコモノならともかく、赤字が確実視されるハコモノを  
造ることは、市民に不利益がもたらされるだけであり、  
おかしいと言わざるを得ません。

私、川村準は、さいたま市の赤字ハコモノ3事業にSTOPをかけて、  
その予算を福祉政策を充実させるために使うべきであると考え、  
「さいたま変革の会」を設立いたしました。

川村 準

NO MORE  
赤字ハコモノ

